

# T中 K先生のあたりまえ

## その① 「ICTの活用でより共同的な学びへ」

### ・ロイロノートの活用

普段は、ロイロノートでの教材の提示、教科書のQRコンテンツの活用などを行っている。奥行きのある美術室では個々の生徒への情報伝達に有効である。また、ICTを題材に組み込むことに挑戦しており、カメラやアプリケーションを使ってストップモーションビデオを作ったり、共有ノート機能を活用した共同制作をさせたりした。ICTの活用によって、自分のアイデアを分かりやすく人に伝えるために必要なことを調べたり、画像や表にしたり、描いたりして相手に見せながら、より多様な表現方法を用いて話しあう姿が多く見られた。ICTの活用ありきの活動にならない、ねらいをもった活用場面の設定を心がけている。

### ・情報モラル、規律についての指導

PCを使う授業では、いたずらや、関係のない授業とサイトを閲覧するなど、見えづらいうところで規律が乱れがちである。事前の指導や細かな声掛け、画面ロックなどの機能を用い規律の定着に向け、粘り強く働きかけている。

ロイロノートの活用例



みんなのアイデア





↑資料の板書とともに配信もしている。  
←共同制作に使った共有ノート。

## その② 「個別最適な指導の探求」

### ・作品の制作過程の写真記録と、リフレクションの活用

作品の制作過程を生徒も教師も見返すことができ、前回の学習を思い出すことや、制作過程の評価に役立つ。写真に、「よくできたところ・上手くいったところ」と「悩んでいる・次回頑張りたいところ」について描きこんだリフレクションを、生徒と教師で共有できるようにしている。リフレクションは個々のその日の成果の把握、つまずきの吸い上げや解消、次回の授業の技術な指導に活かしている。生徒の主題に寄り添った声掛けに効果的である。

生徒のリフレクション





